



本 巢 市

元気で笑顔あふれる本巢市を 目指して



本 巢 市 長 藤 原 勉

本市は、平成16年2月に3町1村が合併してから、今年で8年を迎えます。緑あふれる森林や根尾川のきらめく水の流れ、田園風景、淡墨桜や温泉資源など美しく豊かな自然環境や多くの歴史的文化遺産に恵まれています。

まず、市南部は岐阜市、北方町及び瑞穂市に隣接しており、地理的な恩恵により、他市との交流が活発となっています。市の骨格を形成しているのが国道157号と、これに繋がる主要県道であり、経済活動、文化や教育の振興などあらゆる分野を支え、重要な役割を果たしています。さらに、今後は東海環状自動車道の（仮称）糸貫ICの開通による高速交通ネットワークの形成を機に、人や物の動きが活発になると予測されており、地域開発の支援がより一層進むものと考えられ、新たなまちづくりの再編が期待されています。

また、肥沃な土地と豊富な水により近郊農業が盛んで、水稲・柿・梨及び苺などが栽培され、良質な農産物として高く評価されています。

さらには、糸貫地域の屋井地区では根尾川左岸堤防沿いに工業団地が造成され、企業が誘致されることにより、経済活動が活発になり、雇用の確保と税収の増加が見込まれるなど、市民の期待が高まっています。

次に、市北部は淡墨桜、能郷の能・狂言、根尾谷断層や淡墨温泉など、豊かな観光資源に恵まれています。観光地までの交通事情は、国道157号を骨格に県道や市道が繋がっており、近年、日当大橋、日当・平野トンネルの開通により時間の短縮が図られ、観光地が身近に感じられ、尚且つ安全・安心で快適な観光の街として充実しつつあります。最近では名古屋市近郊、岐阜市などから大勢の観光客が訪れるようになりました。一方、鉄道は樽見鉄道（株）が大垣から根尾樽見まで運行されており、淡墨桜の開花時期には遠方から多くの方々が乗車されます。



名木「淡墨桜」樹齢1500余年

これからは地域の特徴や魅力を最大限に活かした「元気な里づくり」、「ぬくもりのある里づくり」、「うるおいのある快適な里づくり」の三つの柱で施策を実施し、「元気で笑顔あふれる本巢市づくり」に努めてまいります。